

【企画もの】

文具店の空間作りについて

たくさんの文房具がずらりと並ぶ様子は、とてもわくわくするものだと私は思う。そんな空間作りについて、文房具店や文房具コーナーで実際にどのように商品がレイアウトされているのか、販売者側はどのように商品をアピールしているのか、調べてみたいと思った。

そこで今回は、ある大型ショッピングモールに入っている大型雑貨店の文具コーナーを歩いてみた。大型の雑貨店ということもあり、商品も幅広い。商品レイアウトの見取り図を作成したところ、図1（下記）および図2（3ページ掲載）のようになった。

通路(↑図2に続く)

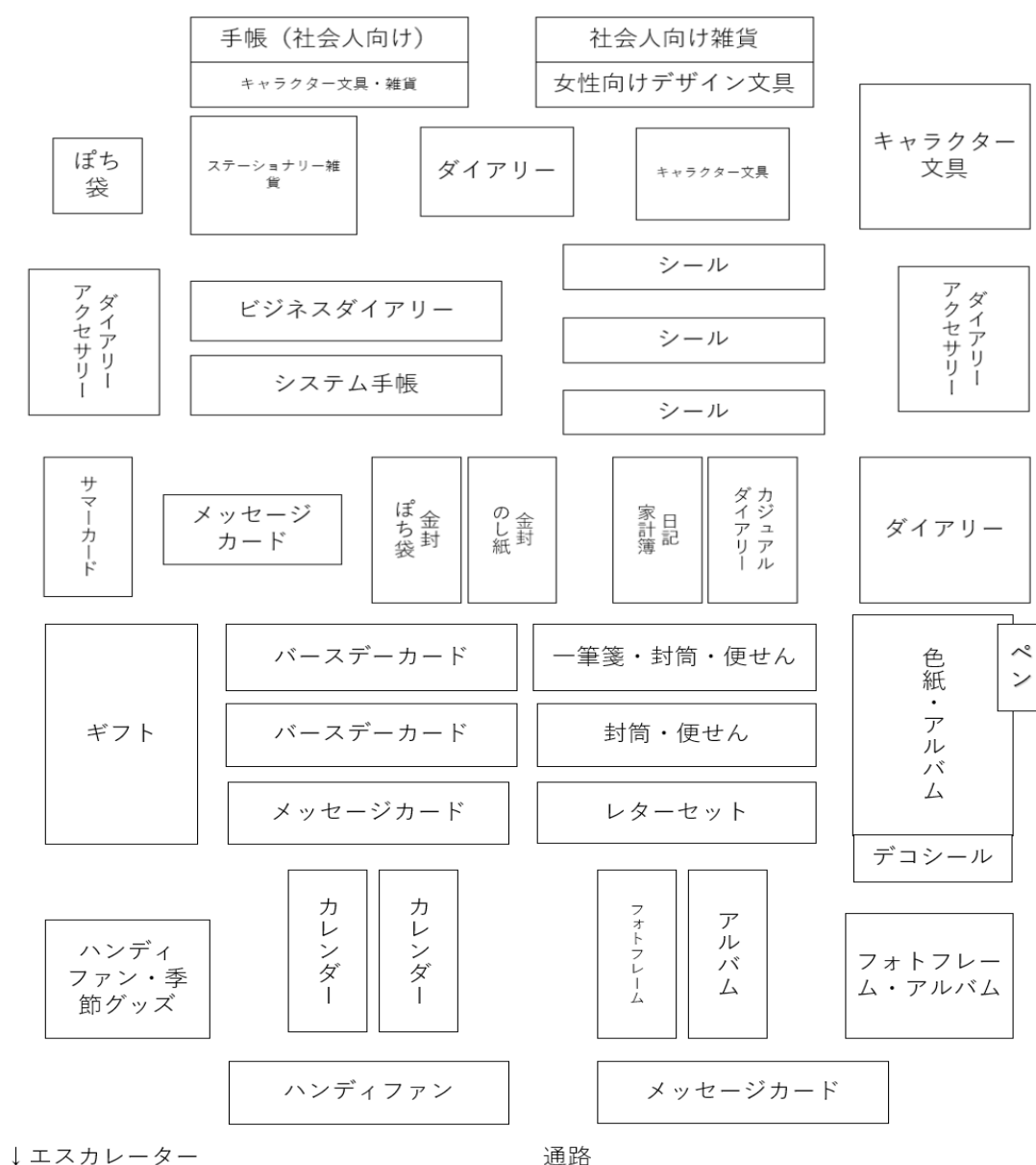


图 1

店舗内を歩き、図を作成した結果、商品レイアウトやディスプレイについて気づいたことなどは、以下の通りである。

- ① 目を引く商品で取り囲む
- ② 立体的展示
- ③ 関連商品
- ④ 意外な商品がお隣に

① 目を引く商品で取り囲む

この文具コーナーは、通路で取り囲むような配置になっているのだが、通路に隣接する、外側にくる場所に、新商品、話題の商品、季節の商品などが配置されていた。

私がエスカレーターでこのフロアに上がると、すぐにハンディファンなどの季節限定商品が目に入った。また、メッセージカードやサマーカードなどは、可愛い、カラフルなデザインのものが多いので、外側から見て華やかな印象になりやすく、フロア全体を明るくしているように思った。最近中高生に流行しているスタディプランナーも、通路と通路の交差する角に配置され、目につきやすくなっていた。

② 立体的展示

文具コーナーに限らず、立体的な展示がこの雑貨店では随所にある。柱を利用して 3 段の棚を作り、そこに商品を陳列している。季節のグッズ、フォトアルバム、ダイアリー、キャラクター文具、スタディプランナー、防災用品などがこの形でディスプレイされていた。

一般の陳列棚は、大人の目線からだと若干低くなるのに対して、柱周り 3 段式の場合の上段は大人にも見やすい高さになっている。さらに、同じ商品が平積みされるのではなく、見本の商品が見やすいように立てて置かれているなど、デザインや形をアピールするにはうってつけである。また、直方体をぐるっと取り囲むように関連商品が配置されていて、自分も一緒にぐるっと周りを一回転して、商品を見たくなるようなディスプレイだと思う。

③ 関連商品

カテゴリが違っていても一緒に使うような文房具は、そばに小さくスペースが作られ、配置されていた。

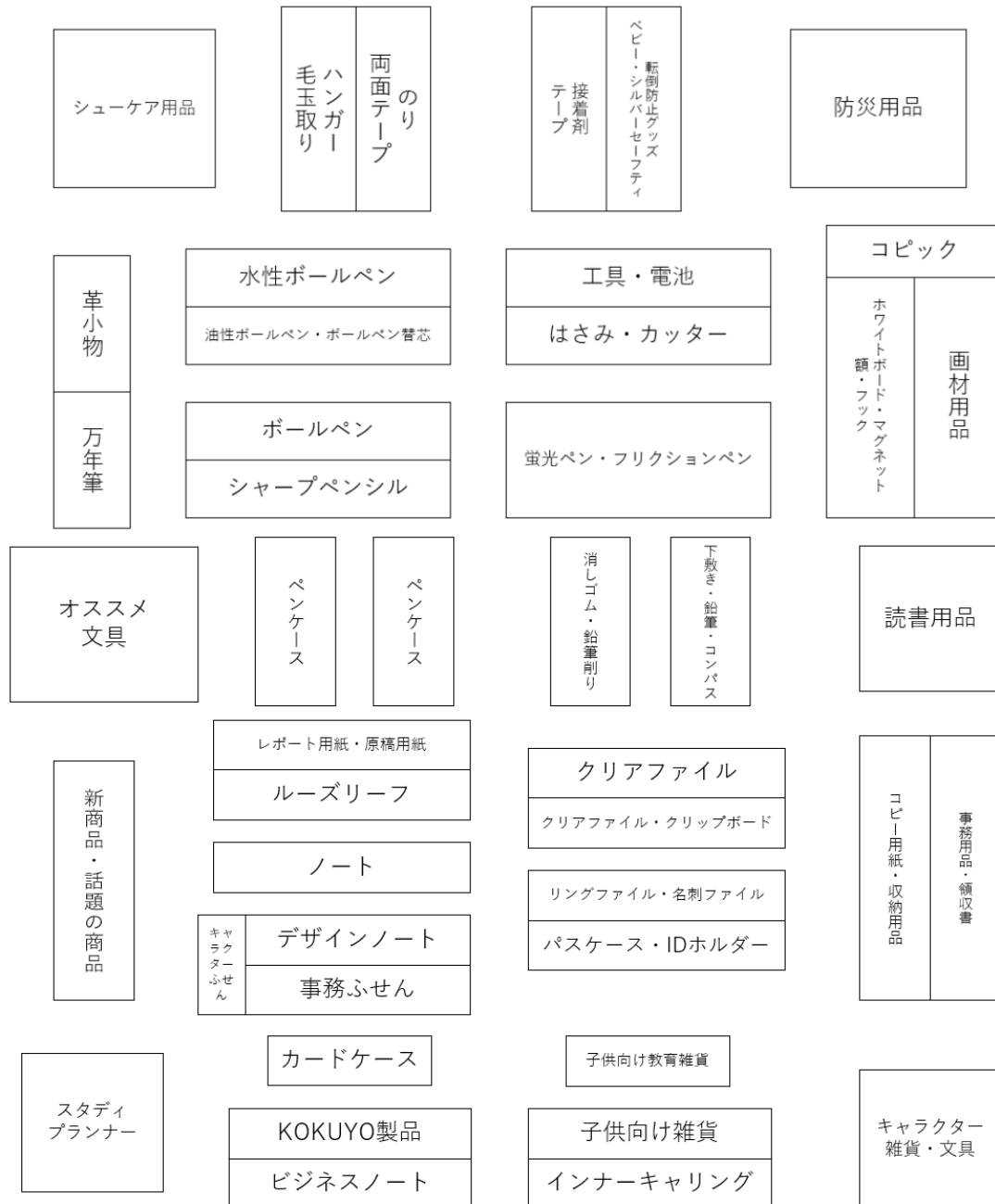
たとえば、メッセージカードやアルバムのコーナー。その販売棚にさらに小型の陳列 BOX が突き出すように引っ掛けてある。その中にぎっしりと色々な種類が豊富に入っているのは、ゲルインキボールペンやマスキングテープにも書きやすいというマーカーである。

これを見たときに、こんなものがあるのか、と驚いた。アルバムやメッセージカードを買いに来た人は、これを見て、「おっ、ちょうどいいところに。こういうのが欲しかった」とか、「これ使えそうだから買っておこうかな」などと思うかもしれない。買う側としてはペンのコーナーまで探す手間が省けるし、売る側としてもセットで売ることが出来る Win-Win な配置だ。

④ 意外な商品がお隣に

見取り図を作っていて、疑問に思ったことがある。図1の上部からつながるエリア（次の図2の下部）のあたりを見て欲しい。

↑靴補修・ネジ・クギコーナー



通路(↓図1につながる)

図2

キャラクター雑貨・文具などが並んでいて、その棚の裏にも、同じカテゴリーの商品が並んでいるのかと思いきや、そこには社会人向けの手帳や、文具・雑貨が配置されていたのだ。

また通路を挟んで、ビジネスノートやインナーキャリングなどの商品が並び、インナーキャリングの裏には、今度は小学生向けの商品が並んでいたのだ。えんぴつキャップ、防犯ブ

ザー、ランドセルカバーなど、小学校低学年向けのグッズである。明らかに、使用者のターゲットはばらばらであるように感じた。

しかし、小学校低学年の子供が自分でこの店舗にやってきて、防犯ブザーなんかを買っていくかと言えば、そうではないだろう。実際に使うのは子供だが、買うのはその親なのだ。最初見たときは、この配置は失敗なのではないかと思った。使用者は一致しなくとも、購入する層が一致することで、このエリアの商品は関連付けられているのだろう。

終わりに

調べてみて、普段は何気なく見ている店内も、売り手側の工夫を考えるのがとても面白かった。他の様々な文房具店についても調べ、比較してみたいと思ったし、売り手側は、実際にどのような思いや意図をもって空間作りを行っているのかも、話を聞いてみたいとも思った。

■ 本稿書誌情報 ■

(本稿は無記名原稿)

『文具に関する論考と企画：奈良女子大学文具ゼミ 2020』

〔2020 年度「文化社会学演習」WEB 版報告書〕 <https://bungu-narajo.org/>

2020 年 8 月 1 日 編集・発行 国立大学法人奈良女子大学文学部

人文社会学科文化メディア学コース 小川伸彦研究室編

〒630-8506 奈良市北魚屋西町 E-mail ogawanobuhiko@cc.nara-wu.ac.jp